岩手の底力
支援企業紹介

岩手県盛岡市
東日本機電開発株式会社

Power of business human in Iwate

電機屋が土づくり!? 意外な事業融合がもたらす クオリティ・オブ・ライフの新たな可能性

水道事業などで利用される制御盤の設計・製造を行う東日本機電開発株式会社。盛岡市手代森の工場では10名の社員が組み立て作業に取り組んでいる

岩手県全市町村で上下水道コントロールシステムを納入、岩手の水道事業を支える盛岡市の東日本機電開発株式会社。近年、環境事業にも参入し、「壊れた土をよみがえらせる」土壌改良に取り組む同社の、事業融合の可能性と展望を紹介します。

公共事業での大きなシェアを獲得してきた取り組みと特徴

人々の生活に欠かせない水。蛇口をひねれば水が出てくるという、便利な暮らしを支えているのが、盛岡市の東日本機電開発株式会社。同社では水道事業における、コントロールシステムの設計・製造を行っている。岩手県内の全市町村をはじめ、北海道・東北各地に至るまでの広いエリアの水道事業で、水質や流量、pH値などの管理を行う同社のコントロールシステムが採用されている。

「機械があれば、電気コントロールを行う必要があります」と語る水戸谷社長。「機械を動かすための機械」が機電事業部門の商品。大きなシェアをほこる水道事業のほかにも、東北新幹線の融雪装置の制御盤や、松川地熱発電所の計装盤、安比高原スキー場の夜間照明遠隔操作盤など、同社のコントロールシステムは様々な場所で暮らしを支えている。

同社では、ひとつの仕事において、打ち合わせから納品、アフターまでを１人が責任を持って担当する方式を採用。本社のある盛岡は、北東北をはじめとする各地の納品先へ、およそ2時間でアクセス可能な場所。システムに問題が起きた場合など、すぐに対応できる機動力と、システム担当者がいるという安心感からメーカーの信頼を得てシェアを拡大してきた。

人材育成が命！独自の取り組みが活発なコミュニケーションを促進

産業振興センターの「ものづくりリーダー研修」に、社長はもとよりほかの社員も参加するなど、人材育成に力を入れている東日本機電株式会社。毎年欠かさず新卒採用を行うことや、再雇用制度の導入などにもその理念が現れている。なかでも、７月の決算にあわせて毎年行われる、１年の目標を発表する会は社員からも好評。社員全員が、これまでの反省をふまえた今後１年の目標を色紙に書いて発表する。色紙は社内に掲示され、いつでも見て自分の目標を確認できる仕組みだ。「自

今月の表紙　東日本機電開発株式会社の工場にて、北関東に納入される水道コントロール盤の組み立て作業を行う様子。同社の商品は、すべてが設置場所などにあわせてカスタム製造された完全オリジナル品。

分のことを周りに伝える取り組み。目標を明確にすることで改めて仕事のやりがいを持つことができると思います」と水戸谷社長。「ここでは営業も現場の工場も、コミュニケーションができる人材を育てる環境を大切にしています」とにこやかに語る。

エンジニアの質が命といわれる「盤業界」。営業以外の社員も、現場に出向いて現地とのコミュニケーションを図るなど、独自の取り組みを続けている。技術の向上のみならず、よい人材を育てるための取り組みに余念がない。

機械づくりも土づくりも「より良く生きる」インフラ整備

東日本機電開発株式会社における、もうひとつの柱が環境事業だ。「健土・健食・健民」をテーマに掲げ、農畜産の分野で土づくりを主に事業を展開している。なぜ電機屋が農業なのか。そこには同社の大きな理念がある。「機械を動かすためのシステム、それと、人間が生きていくための土づくり。ここには共通の社会的意義があります。どちらも人間が生きていくうえで欠かせないファクターですから」と水戸谷社長。機械も土づくりも、広い意味では人間が生きていくためのインフラ整備であり、そこに同社の存在価値があると考えている。

CLOSE UP

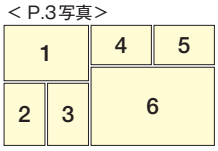
東日本機電開発株式会社
【代表取締役】水戸谷剛
【所在地】岩手県盛岡市手代森 5-19-10
【電話】019-675-2277
【FAX】019-675-2288
【URL】http://www.kidenkaihatsu.co.jp/

代表取締役社長　水戸谷　剛
1971年岩手県盛岡市生まれ。栃木県の大学を卒業後、（株）荏原電産に入社。夜間学校で電気工学を学ぶうち、工場勤務から設計部の開発担当に異動。2006年東日本機電開発（株）入社、08年に代表取締役就任。

当初は家庭用の生ゴミ処理機の販売・メンテナンスから始めた環境事業だが、「土が壊れ、人の健康を害している」との提言に出会い、96年頃より土壌改良への取り組みが始まった。「農閑期における、土をよみがえらせるためのプロセスを作り直す」。これは、同社の非繁忙期とも重なり、今では機電事業と並ぶ柱に成長している。

現在は、畜産・農業における偏った生産などによる「壊れた土」を改良するための、家畜糞尿処理システムや肥料の開発、社内の農業指導員による農業コンサル事業を展開。今後は全国的な展開も視野に入れ、流通・販売にも力を入れていく予定だという同社。岩手の企業の、「日本の土を変える取り組み」に、今後も注目したい。

＜P.3写真＞



1. 業務を問わず人材育成に力を入れる東日本機電開発（株）では、社員同士のコミュニケーションも活発
2. 環境事業部門において開発中の高設栽培システム。作物が自ら水を吸い上げる力を利用している
3. 社員全員が１年間の目標をしたためた色紙を掲示。個性的な書き込みがずらりと並ぶ
4. 「機械をうごかすための機械」が商品。各地の水道事業などで同社の商品が活躍している
5. 設置場所や利用目的に合わせ、完全オリジナル品のみを製造。設計時の打ち合わせが欠かせない
6. コントロールシステムにおけるタッチパネルの動作確認作業